

1. 研究課題名：

持続可能な沿岸海域実現を目指した  
沿岸海域管理手法の開発

2. 研究代表者氏名及び所属

柳 哲雄（九州大学・応用力学研究所）



3. 研究実施期間：平成 25 年度

4. 研究の趣旨・概要

赤潮の頻発、貧酸素水塊の発生・長期間停滞、漁獲量の減少など、日本の沿岸海域では近年生態系サービスが劣化している。

本研究の目的は閉鎖的内湾である瀬戸内海、開放的内湾である三陸沿岸海域、陸棚域である対馬沿岸海域を例に、人々が安らぎを得、生活の糧を得、行き交うことの盛んな、「きれいで、豊かで、賑わいのある、持続可能な沿岸海域」を創り出すために必要な自然・社会・人文科学的な知識を総合的に得るための協働研究を行うものである。

この研究成果を元に、具体的な沿岸海域管理施策を、提案するが、その施策はこの三海域のみならず、日本全国の沿岸海域に適用可能である。

5. 研究項目及び実施体制

1) 総括：柳 哲雄（九州大学・応用力学研究所）

2) 瀬戸内海の管理手法に関する研究：西嶋 渉（広島大学・環境安全センター）

3) 三陸沿岸海域の管理手法に関する研究：小松 輝久（東京大学・大気海洋研究所）

4) 対馬沿岸海域管理手法に関する研究：清野 聡子（九州大学・工学研究院）

5) 社会経済学の観点からの考察：仲上 健次（立命館大学・政策科学部）

6) 人文科学の観点からの考察：印南 敏秀（愛知大学・地域政策学部）

## 6. 研究のイメージ

